

東京農業大学稲花小学校

学校だより【10月18日】第27号



事前面接が行われています

東京農業大学稲花小学校 2020 年度入試のための[事前面接]が毎日行われています。今年は前年度よりも多い応募者があり、本校の教育にご理解のある受験者が多くいらっしゃることを喜んでいます。毎日、やや緊張したお顔の保護者様や、まだまだ幼い表情のお子様も、本校に集合されます。

事前面接期間は 10 月 9 日(水)～29 日(火)、その後、11 月 1 日(金)、2 日(土)、そして 3 日(日)に前期、11 月 9 日(土)及び 10 日(日)に後期の入学試験が行われます。本校の一年生には、去年の受験を思い出す子どもたちもいますが、なぜかすっかり忘れてしまっている子どももいます。しかし、来年 4 月には一年生が入学し、自分たちが二年生になることは、誰もが楽しみにしているようです。

「きのこ博士」が教えてくださいました

東京農業大学森林総合科学科の江口文陽教授から、農大稲花小学校の子どもたちへ、「菌床」のプレゼントがありました。菌床というのは、おがくずなどを直径 20 センチメートルほどの円筒型に固めて、そこにきのこの菌を植え付けたもの、いわば、きのこの畑といってもいいかもしれません。ここから、植え付けたエリンギ、シメジ、キクラゲなどが生えてきます。



江口教授は、きのこ博士として知られ、「きのこの利用法の開発」を研究されています。テレビ出演も多くあり、また、エッセイストでもあります。本校の子どもたちがよくお邪魔する「食と農」の博物館館長としても活躍されていますね。

10 月 11 日(金)には江口教授が稲花小学校で子どもたちに、きのこのミニ講義をしてくださいました。きのこが好きな子どもも、あまり好きではないという子どもも、江口先生の楽しいお話に、聞き入っていました。きのこ博士の講義は、子どもを惹きつけてさすがでした。

いただいた菌床と説明パネルは小学校の玄関に掲示しています。登校してくると、「いくつくらいきのこが発生しているのか」、「どれが大きくなったかな」と、毎朝、子どもたちは興味津々です。「どこまで大きくなるのかな」、「収穫したきのこを給食で出してね」、中には「校長先生はもう食べたの?(ドキッ)」と質問も尽きません。



虫たちもこんにちは！

世田谷キャンパスは自然に恵まれています。キャンパス内だけでなく、農大稲花小学校の周辺や、廊下に沿った大きい窓ガラスにも、様々な虫たちが飛来します。子どもたちが持ち込む虫の名前を一緒に調べることも、校長の役目の一つです。今週は近隣で、チャドクガが発生して、子どもたちにもチャドクガ警報(?)が発令されました。そのほか、最近では外来性の昆虫キマダラヒメカメムシを、正門で発見。

なお、図鑑でもわからないときは、東京農大の教員や卒業生にたくさんいる“昆虫博士”に問い合わせると、たいていはほぼ瞬時に情報が集まります。さすが、博士たちは何でもよく知っています。



農大一中一高から見学の先生方が

10月15日(月)と16日(火)に、東京農業大学第一高等学校・中等部の先生方が、本校の英語の授業を見学されました。本校では「Grape Seed」プログラムによる英語教育を、一年生から毎日実施しています。英語の講師は、イギリス人とオーストラリア人。授業だけでなく、子どもたちと一緒にグラウンドで遊んだり、図書室の窓口をサポートしたりと大活躍です。

中高の先生方には、子どもたちが熱心に楽しく英語の勉強をする様子を見ていただきました。中学生になるころの。子どもたちの英語の上達ぶりが楽しみです。

サツマイモ掘り

東京農業大学国際農業開発学科の志和地弘信教授のお招きで、農大稲花小学校教育後援会の協力により、本校の子どもたちが10月19日(土)、サツマイモ掘りをするようになりました。東京農大の学生・院生の皆さんが、イモ類や熱帯作物の研究にも使っている畑です。子どもたちがいつも「稲花タイム」でお世話になっている湯浅さんにもお手伝いしていただいています。お天気が心配ですが、どんなサツマイモが掘れるか楽しみ！ 次号でのご報告をお楽しみに。

校長 夏秋 啓子